

令和3年度 介護老人福祉施設では、以下の内容にて事業を実施しましたことを報告します。

◆月別人員変動

(名)

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
月末入所者数	18	46	64	19	45	64	19	45	64	20	43	63	18	43	61	18	43	61
月末現在員	18	41	59	17	40	57	16	41	57	17	42	59	19	42	61	15	41	56
新入所者	1	1	2	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	2	0	1	1
退所者	1	1	2	0	1	1	0	1	1	2	0	2	2	1	3	0	1	1
延べ入院者	3	7	10	3	6	9	3	7	10	5	7	12	3	3	6	3	6	9
退院者	1	1	2	1	0	1	0	2	2	2	5	7	1	0	1	0	3	3
外泊者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

月	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
月末入所者数	18	44	62	17	43	60	20	44	64	21	42	63	22	42	64	21	43	64
月末現在員	17	41	58	16	39	55	20	41	61	19	40	59	20	41	61	21	40	61
新入所者	0	1	1	2	0	2	2	3	5	1	1	2	0	1	1	0	0	0
退所者	1	2	3	1	0	1	0	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0
延べ入院者	5	5	10	3	5	8	1	3	4	2	3	5	4	3	7	2	5	7
退院者	1	0	1	1	1	2	1	1	2	0	0	0	2	1	3	2	2	4
外泊者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆年間累計

(名)

	男性		女性		合計	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
月末入所者数	225	231	617	566	842	797
月末現在員	201	215	463	531	664	746
新入所者	7	9	15	10	22	19
退所者	5	7	13	11	18	18
延べ入院者	44	37	60	67	104	104
退院者	22	12	20	21	42	33
外泊者	0	0	0	0	0	0

◆月別要介護度人数・平均要介護度

(名)

要介護度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
2	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	61
3	13	13	12	14	15	15	15	17	16	18	19	20	187
4	25	26	27	25	26	24	23	22	25	24	23	12	282
5	16	16	16	15	13	13	12	12	13	12	12	23	173
平均要介護度	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.63

◆月別延べ人数・稼働率 (名)

要介護度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	120	124	120	124	124	115
2	175	124	149	141	143	148
3	359	403	390	422	453	427
4	718	717	670	681	705	652
5	400	400	421	361	409	360
延べ人数	1772	1768	1750	1729	1834	1702
空きベッド(床)	148	174	170	232	116	135
稼働率(%)	92.3	89.1	91.1	87.1	92.4	88.6

要介護度/月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間累計
1	93	114	105	124	112	62	1399
2	137	92	100	124	112	152	1749
3	463	444	474	513	513	588	6037
4	644	600	722	716	616	684	8809
5	372	349	368	394	336	403	4976
延べ人数	1709	1599	1769	1871	1689	1889	22970
空きベッド(床)	160	163	113	79	90	95	1770
稼働率(%)	86.1	83.3	89.2	94.3	94.3	95.2	90.3

◆ベッド稼働率

年間平均稼働率
90.3%

◆保険者別入居者数(令和4年3月31日 現在63名) (名)

	寒川町	茅ヶ崎市	藤沢市	海老名市	横浜市	計
男性	18	0	0	0	0	18
女性	34	7	2	1	1	45
計	52	7	2	1	1	63

◆年齢別人数(令和4年3月31日 現在63名) (名)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100以上	計
男性	0	0	2	3	9	3	1	0	18
女性	0	0	4	10	12	10	8	1	45
計	0	0	6	13	21	13	9	1	63

	平均年齢	最高年齢	最年少年齢
男性	86.0	95	77
女性	88.6	104	75
計	88.3		

◆本入所申込み(待機)者数(令和3年3月31日 現在) (名)

保険者	申込み者数			保険者	申込み者数			保険者	申込み者数			申込み者数(合計)		
	男	女	計		男	女	計		男	女	計	男	女	計
寒川町	45	55	100	厚木市	1	1	2	東京都	1	1	2	58	78	136
茅ヶ崎市	8	8	16	綾瀬市	1	0	1	その他	0	4	4			
藤沢市	2	6	8	横浜市	0	1	1							
相模原市	0	1	1	川崎市	0	1	1							

2021年度 短期入所生活介護 事業報告

2021年度 短期入所生活介護では、以下の内容にて事業を実施いたしましたことを報告します。

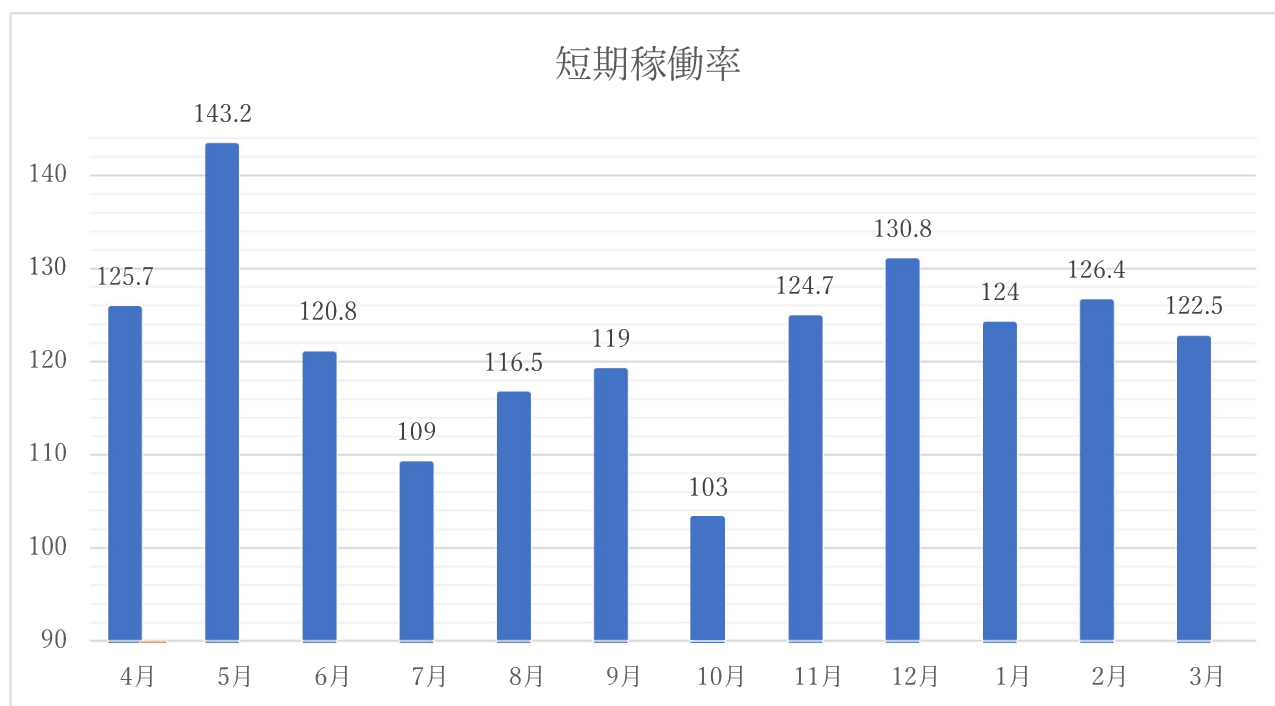
※2短期入所生活介護に至りましては特養ベッドの空床(入院中の方や退所された方の空床のベッドの活用)を活用し定員7名以上受け入れる体制を整えています。

稼働率が毎月ほとんど100%を超えているのは空床ベッドを活用したことで影響しています。

◎年間実績

	2021年度	(前年度:2020年度)
利用延べ人数(名)	3124名	2902名
1日平均(名)	8.55名	7.96名
稼働率(%)	122.1%	111.4%
平均要介護度	2.97	2.76
新規人数(名)	45名	61名

◎年間稼働率表



年間平均稼働率: 122.1 %

◎年間活動

必要時実施	事業所会議
隔月実施	壁紙作り
季節に合わせた行事	クリスマス会 ・ 祝賀会 など
その他	・外気浴 ・ リハビリ体操 ・ レクリエーション ・ 個別レク

◎事業総括

- ・特養の空床を利用することで毎月7名以上のご利用者様を受け入れることができた。稼働率もほぼ毎月100%以上を達成することが出来たが特養との合算での稼働では目標値であった96%以上を達成することは出来なかった。

短期入所としては、2022年度も特養の空床を活用することで多くの方に寒川ホームショートステイを利用して頂きご家族、ご利用様が安心して過ごせる場所の提供を行い在宅生活の維持ができるよう支援していきます。またコロナ感染症と向き合いながらも何かご利用者様に満足して頂けるレクリエーションを来年度は実現できるようにしていきたいと考えています。

報告者 短期入所生活介護 生活相談員 : 高野 将樹

通所介護 2021年度実績報告

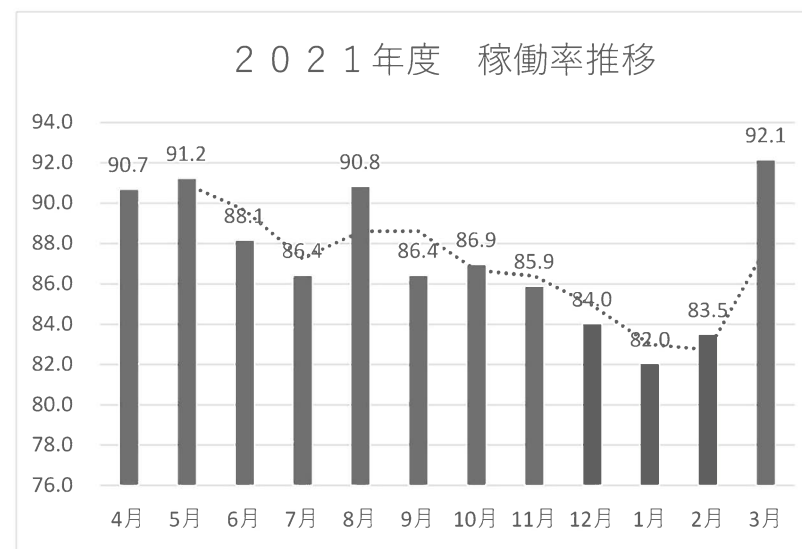
2022年5月10日 作成

植田 洋平

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
稼働率(%)	90.7	91.2	88.1	86.4	90.8	86.4	86.9	85.9	84.0	82.0	83.5	92.1	87.33
営業日数(日)	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	25.83
1月利用延べ人数(人)	680	684	661	648	681	648	652	644	630	615	626	691	655.00
1日平均利用人数(人)	26.2	26.3	25.4	24.0	26.2	24.9	25.1	24.8	24.2	25.6	26.1	25.6	25.36
平均介護度	1.96	1.95	1.84	1.81	1.89	1.93	1.89	1.91	1.94	1.94	1.99	1.92	1.91

* 稼働率は、通常規模通所介護定員750人に対して算出

要介護度別構成	実績(人)	昨年度比 (人)	実利用(人)
要支援1	269		9
要支援2	615		9
小計	884		18
要介護1	3299		47
要介護2	2032		24
要介護3	537		10
要介護4	961		14
要介護5	166		4
小計	6995		99
合計	7879		117



令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設 事業計画書・事業報告書

<p>理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。</p>	<p>方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
--	---

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築 	<p>①毎月62床（稼働率96%）以上を維持 ⇒平均稼働率92%（月96%以上の達成は無し） 4月～6月にかけて空床利用や入所に向けての事前準備不足稼働率として低い数値となった。 対策実施後（7月～）の平均稼働率として、93.5%だった為、引き続き次年度も継続する。</p> <p>②満足度アップ（ご利用者・スタッフ）と理念・基本方針への意識変化 ⇒年度末個人面談にて、理念・基本方針を理解しているスタッフは半数に満たず。 『グループ移動』に対する抵抗は減少したがグループの課題解決まで至らず、評価として未達成である。</p>

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）。	
『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新）	
『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）	

介護老人福祉施設 事業所 事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①地域のお客様に選ばれる施設創り（介護機器の定着・寒川に特化した施設）（革新・開花） ②医務と連携し（毎月会議の開催）、個々の危機管理能力を高めると共に事故件数の減少を目指す。（歓喜・革新） ③グループのサービスの質・個々の介護スキルを向上させる（歓喜・革新）
具体的な達成（目標）数値	<ol style="list-style-type: none"> ①入所申し込み件数過去3年平均50件より増加していること。全ての介護機器の使用が浸透している。（年度末実技・筆記テストで理解している） ②事故件数過去3年平均10件より減少していること。ヒヤリハット件数年500件以上。（昨年度より個々の件数を上げる※毎月グラフ化） ③全ての入居者に合ったサービスが実施出来ている。（毎月、活動報告書に個々合った内容があること）個人目標に介護スキルアップに関する目標の選定。（全スタッフ達成していること）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①介護機器の取り組み企画 特化した施設創りへの企画 ③グループ課題・個人目標の選定 個別面談	<ul style="list-style-type: none"> ・個別目標の評価基準表の評価方法（判断基準）を決める。 ・介護機器について、機器専属指導者を決め、各々で機器に対しての勉強を実施。 ・特化した施設創りに向け、各委員会の議題に組み込み、対応の検討中。 	7月 ①装飾・グループ別研修の開催 ②課題からKYT・勉強会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント（寒川の日）の開催する。 ・各グループ・委員会にて寒川に関連したもの（写真・看板）を作成する。実施できる方には一緒に作成して頂いた。
5月 ①機器指導者育成 ②事故課題の明確化 ③個別面談	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を各グループ順次開始。 ・介護機器について専属指導者での勉強会を引き続き実施。 ・事故課題の明確化について、ヒヤリハットの個別グラフ化を実施しているが活かすまで繋がらず。 	8月 ①装飾・グループ別研修の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ・委員会にて寒川に関連したもの（写真・看板）を作成する ・介護ソフトの使用方法を業者より説明を受ける。活用できる部分等の検討が必要。
6月 ①機器指導者育成・事業所の装飾等 ②課題からKYT・勉強会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標の評価を実施 ・各グループの装飾、イベント（寒川の日）の企画を行う。 ・担当別にして介護機器毎の使用方法を把握する。 	9月 上半期評価・見直し ③取り組みの経過発表会 個別面談（下半期に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット件数を前年度より増えているが、薬関係の事故報告書が目立つ。 ・個別面談を実施し、勉強を兼ねてグループ間移動を実施。
上半期評価		<ul style="list-style-type: none"> ・介護スキルアップは評価表をもとに行っている。タイミングが合わず評価が行えないことがあるので、リーダー・委員長等で協力し合う必要がある。 ・介護機器への取り組みが行えていない。・新たなイベントや掲示物を寒川に関連させて行った。・薬関係のヒヤリハットが多いため、重大なアクシデントにならないよう取り組みが必要。 	
10月 ①中間介護機器テスト ②評価から必要事項の再検討 ③個別面談（下半期に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員へ介護ソフトの説明を実施するも、一度に全ての記録（食事・排泄・入浴・ケース記録・日誌・リスク関係）を介護ソフトに移行することは困難と判断する。まずは、リスク関係（ヒヤリハット・アクシデント表）からの移行を進める。・個別面談を実施する。 	1月 ①介護機器最終テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ソフトへの入力が行えている。タブレットのみの使用のため、パソコンでの入力も広める必要がある。 ・通院時の様式を運用することで、情報伝達が正確に行えている。 ・対象グループを限定し、介護ロボット（SASUKE）の使用を開始する。
11月 ①中間介護機器テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、アクシデントに限り、介護ソフトへの記録に移行する。タブレットの使用が苦手な職員には、入力時に一緒に行うことが必要である。 ・個人目標評価の基準の一部見直しを行う。 	2月 ①介護機器最終テスト ③個別面談（目標評価） 取り組み成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット（SASUKE）は対象グループだけではあるが、使用できる職員が増えた。 ・介護ソフトのパソコンでの使用方法をトルト（動画）に載せるも、タブレットでの入力者がほとんどである。 ・個人目標の評価を実施する。
12月 ②必要に応じて勉強会・対策	<ul style="list-style-type: none"> ・配薬セットもれ（屯用で服薬予定がセットされていない）が上半期に入り5件発生。薬の情報共有を正確に行うため、通院時の様式を作成する。 	3月 下半期評価 ②ヒヤリ・事故件数の集計 ③個別面談（目標評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談・個人目標の評価を実施する。個人目標は各自達成できている。 ・ヒヤリハット件数は増えたが、薬関係の事故報告書件数が増えた。
下半期評価		<ul style="list-style-type: none"> ・評価表をもとには各自介護スキルアップは行えた。・薬関係のミス（配薬セットもれ等）が目立ったため、医務との情報共有を正確に取り組んだ。 ・介護機器の浸透は一部の職員・一部の介護機器に限りしか出来なかった。・ヒヤリハット、アクシデント報告に関しては、介護ソフトへの記入に移行できた。 	

実績・達成度（目標との比較）	<ol style="list-style-type: none"> ①入所申し込み件数は過去3年間の平均より増え、53件と目標を達成している。①介護ロボット（SASUKE）を対象グループの職員が使用できるようになり、介護ソフトは一部の記録（ヒヤリハット・アクシデント）に限り電子化に移行。全ての介護機器を全職員に浸透することは出来なかった。②ヒヤリハット件数は昨年度より増えたが、事故報告件数が15件と目標を達成することが出来ず。また、薬関係（誤薬・配薬セットもれ）の報告書が特に9件と多かった。 ③活動報告書を活用し、入居者にどのようなレクを提供しているのかが分かりやすくなったが、適したサービスだったのか判断は難しい。③評価表では各自が介護スキルアップが行えたが、サービスの質が上がった根拠が表しにくい。
----------------	---

令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 短期入所生活介護 事業計画書・事業報告書

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築	目標（気づきの力を身に付けるよう）に対しての評価基準がなかったことで計画的な取り組み、年間での評価が出来なかった。達成の基準も具体的に決まっていなかったことで事業所としての評価ができずに終わってしまった。 特養との連携から空床ベッドを利用することで年間稼働率100%以上を6月以降、毎月確保することができた。緊急で依頼が7件あったが現場職員が柔軟に対応し利用者に対しての大きな事故は無かったことは評価できる。

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）	
『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新）	
『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）	

短期入所生活介護 事業所 事業目標	① お客様に安心、安全な場所として選ばれる事業所を目指す為に個人の気付き力のスキルを上げチーム力向上の足掛かりを作る。（歓喜） ② 介護機器（ICT）を活用し24時間予約受け付け体制を整備し選ばれる事業所を目指す。（革新・開花）
具体的な達成（目標）数値	① 前期：毎月のヒヤリハット目標記入件数達成（個別に前年比より目標件数算出し月ごとに目標記入件数増加） 後期：ヒヤリハット記入件数が前期半年間より後期半年間が増加 後期：アクシデント件数が前期より後期は減少していること ② ICTを活用した予約システムを作り上げ24時間365日相談員の確認無くとも予約受付・空き情報がタイムリーに確認できるようになっている。 最終評価基準：予約申し込みが電話連絡またはFAX送信なく運用できていること

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①ヒヤリハットの重要性の理解（勉強会） ②ICTの活用方法の検討	①リスクマネジメント委員会で取り上げたケアコチ用研修を再度確認し個人目標の設定を実施 ② 予約システム導入に関し、事業所単位での決定は困難（金銭面もあり）。導入有力候補を数件算出し法人と相談。	7月 ①毎月の評価 ②内部向け試用開始	①全体の記入はできていないが目標件数には至っていない職員が1部まだいる。全体が目標件数を達成するために達成できていない職員に個人目標設定の見直しを行う。 ②使用料の算出が出来ていない使用開始にまで至っていない。
5月 ①個別目標設定 ②予約システム作成	①個別目標を各自設定（毎月目標）8割、4月に関しては目標件数を達成。事業所間の中でも記入件数は1番多かった。②3 ～4件候補を算出、ストアーズについてシステムの行い方を確認	8月 ①毎月の評価 ②内部向け試用開始	①半数は目標値を達成。少数は達成できず。各意識の低下がここ数カ月で落ちてきている。 ②ICTでの予約は現時点、空床を考慮しての受け付けを行っているため一旦、見合わせが必要。
6月 ①毎月の評価 ②予約システムの作成	①記入目標件数に関して、達成できていない職員に仕組みについて、ヒヤリハットについて記入がないことの確認を7月中に実施。② 毎月の使用料の算出を7月までに実施、法人に報告	9月 ①個別の前期評価 ②アンケート確認	①全体的に毎月、目標を達成できている職員未達成のままの職員となった。後期に向けては達成できていない職員にはまずは達成に向けての目標設定を再度行い、達成できていない場合は月初の面談を行い達成に向けて動く。
上半期評価	①昨年度に比べ確実にヒヤリハットの記入件数は増加した。月に1回も記入職員も記入するようになり意識づけは行えたが職員によって記入件数の差があり、全体的な底上げにはなっていない。後期に向けては、目標件数が達成できていない場合は毎月、月初に面談を行い目標達成に向けて動いていく。②予約システムについて、実際にベッド数（7床）と当日の受け入れられるベッド数が異なることが多々あり、特養との空床の関係上、実際に連絡で受けた方が良いとの評価のため一旦、保留とする。		
10月 ①全体の分析と傾向、評価 ②改善点の修正	①全体的に数値が大きく変動があった職員と多少の変動のみで大きく分かれた。個別での前期評価を確認実施。意識は出来ている傾向にはあるが書くまでには至らない傾向にあった。	1月 ①毎月の評価	薬関連のヒヤリ、アクシデントが継続して増加し前期よりも件数が多いが薬関連を抜くと増加に至らず評価できる値とは言えず
11月 ①毎月の評価 ②居宅部会にて説明・運用	①ヒヤリハット、アクシデント件数確認。利用者関連についての件数は月別と見ると減少にある。 ②今年度の実施は見送り	2月 ①後期評価	後期になり職員の退職や他グループからの応援で前期とのメンバーには大きな変動があり、評価としては正しい（正確な）評価とは言えない。ただし件数だけで見ると個人差はあるが件数は多くなっている
12月 ①毎月の評価 ②運用	①職員の変動にて対象職員は少人数となった。前期との比較は大まかに違いがある可能性があるが前期と後期の変化は継続事項とする。12月より、利用者関連よりは薬関連のヒヤリ、アクシデントが増加し件数が上がってしまっている。	3月 総合評価	①件数のみで評価すると件数は多くなったため評価できるが実際は職員が前期と後期で大きく違いが出たため計画通り進めたとせず。②ICTに関しては結果から運営には至らなかった。
下半期評価	①について、後期人員の変更から前期で行っていた取り組みに関して後期での評価は困難となった。また、事業所としてのアクシデント、ヒヤリハットとしては薬関連が大幅に増えてしまった。 ②について、ICTの活用について短期の予約をICTで行う取り組みは空床利用等の観点から見送ったが引き続き来年度に持ち越していき実現できるようにしたい。		

実績・達成度（目標との比較）	①前期に関しては記入数は個人差はあるが目標件数を立てることによって各自の件数目標は前期終盤には達成できた。しかし後期に渡り職員の変更等で元々の評価予定だった前期との比較が困難となり、比較できる職員が2名だけとなってしまった。この2名だけの評価としては前期に比べ記入件数は増えている。アクシデントに関しては薬関連が多かったが一概に事業所だけの問題では無いため薬関連を除くとアクシデント数は減っている。②ICTの活用までは至らず目標は達成出来ていない。
-----------------------	--

令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 通所介護 事業計画書・事業報告書

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築	年度目標「1日平均利用人数：28人」に対し、4月：21人/月平均となり、以後23人/月～25人/月を推移。利用終了者に対し新規利用者数や利用日数増等の要素が下回ってしまった。年間計画に基づいた行動に至らず場当たりの新規受け入れや提案などを続けたことも要因として挙げられ、明確な行動指針なく動くことは安定した営業には繋がらない反省点がある。以上の振り返りを持って、目標は未達成となった。

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）	
『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新）	
『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）	

事業所 事業目標	① 2025年に向けて多種多様な趣味や求められるサービスが変わってくる為、嗜好を情報収集・分析・提案を目指す（歓喜） ② 全体レクが主体のデイサービスから「個別レクリエーションや機能訓練」を持つデイサービスを目指す（歓喜・革新） ③ ICT等を用いてレク内容の記録（動画等）する（革新・開花）
具体的な達成（目標）数値	① レク革新チームを立ち上げる。ターゲットを絞ったお題を設け3チームに分けそれぞれのチームが3か月ごとの行動計画を立案できている ② チームごとにターゲットを絞ったレクや目的を持ったレクを10個提案・実施できている ③ レク内容を30個記録・保存（動画等）し、ホーム内で共有・活用できている。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 デイに求められるサービスについての情報収集・共有	情報収集は随時実施した。 収集後の取捨選択、共有方法を検討中。	7月 テーマ①について具体的な内容・取り組み方を決める	聞き取り実施するも具体的な内容に至らず。ターゲットを絞るまでのお題には至らず。①について内容の変更を次月に検討する。
5月 利用者が求めるレクについてアンケートを実施、それをもとにターゲット像を3つに絞る	ターゲット像を7, 80代男性（ここ1, 2年で男性利用者の増加が顕著）に絞る。今後の月間計画について、1つずつであったりレク内容の動画化を想定していたが、現状は個別レク（余暇活動）の数を増やすことが理想であり、計画の変更の必要性がある	8月 テーマ①の実行・評価・改善	①について、人員配置上も含め実施困難とお題のバラつきにより、①の実施は保留とする。
6月 ターゲット像について詳細を会議にて決定し以降3か月ごとに1つずつ提案・実行・評価をする	6月事業所会議にて先月絞った内容を共有。次月に具体的な内容を利用者様を対象にレク内外にて聞き取り（用紙作成後）を実施予定。	9月 改善を続け、テーマ①の最終評価をする	①について、内容を変更しチームではなく個人がレク内容を検討し目的のあるレクの考案に変更とし後期に実施とする。全体の事業計画の内容変更となってしまった。
上半期評価	ターゲットを絞ることで他にはないレクリエーションのサービス実施を目指したが各利用者の望む内容にバラつきがあり、チームでの実施が困難となった。今の現状にあったレクを行うこととし内容の変更を行い後期に向けて実施していく。内容については各スタッフが目的のあるレクの実施とし毎月内容を検討し利用者、スタッフ共に目的のあるデイにしていこうとした。		
10月 レク実施内容の検討	①の変更に伴い②、③ともに変更。各スタッフに担当日を決め11月から実施。10月は評価できず。	1月 各担当日にスタッフが考案レクを実施	目的のあるレクの実施を行うと共に、その時の状況や利用人数によって内容の変更を行い臨機応変に多種多様なレクの実施が1月は行えた
11月 各担当日にスタッフが考案レクを実施	前年と比べ新しいレクを実施することが出来た。マンネリ化したレクの打開に1歩進んだ。	2月 各担当日にスタッフが考案レクを実施	2月はご利用者様から評価の良かったレクの実施を行い（事前調査にて）日によっては内容の異なったレクを同日に実施できたことは評価できるがそれぞれの少数の意見を実現することが出来なかったことは評価できず次回以降の課題となる。
12月 各担当日にスタッフが考案レクを実施	月によって職員の担当日が異なるためご利用様にとっては新しいレクに触れることが出来、マイナス的な評価はご利用者様からは無かった。	3月 職員面談	職員面談にてレクの評価を実施。今までにないレクの実施や目的のあるレクを実施できたことは評価できる
下半期評価	前期からの評価によって、内容を全て変更することとなったことは評価できず。後期は目的のあるレクにし、また評判の良かったレクをご利用者の希望に沿って実施したことは評価できる。しかし全ご利用者がしっかり、そのレクによって目的を持っての方と持たない方がいたことはしっかり満足できるサービスを提供したとは言えず。		

実績・達成度（目標との比較）	①②③と事業目標を立てたが全て実施できず未達成。事業目的の内容を変更することとなった。実施に至らなかった原因として実施内容の実効性が欠け毎月の計画内容から遅れてしまったことも原因の一つ、ただご利用者の望む内容をチームに分けて実施するのも聞き取り結果から統一性が無く困難。後期からは各スタッフが担当月を決め目的のあるレクの実施とし4か月間ではあったが実施した。評価としては数か月間ではあるがレクの多様化、同日に別内容のレクを同時進行したことは少なからず評価はできる。総合評価として目標からは内容を大きく変更したことで達成とはできず。
----------------	---

令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 訪問介護 事業計画書・事業報告書

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	---

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築	①感染症の影響があったが会議時間や場所を変更することで調整できた。 ②ヒヤリハットについて研修を実施し意識を高め前年より20件増となる。 ③事業所内の年間研修計画は未開催が数回あり。感染症の影響で外部研修に参加できなかった影響。 ④稼働率の波があったが、昨年届かなかった年間目標を達成することができた。

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）。
『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新）
『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）

訪問 事業所 事業目標	①多様化する専門職としての役割を学び知識を深め観察力を高める。（歓喜・革新） ②ヘルパーよりサービス手順書の内容についての提案をサービス提供責任者へ積極的に行う。（歓喜・革新） ③ICTを活用し独居の方のご家族へ情報提供を行う。（革新・開花）
具体的な達成（目標）数値	①・②専門職として必要な10項目（☆）の勉強会を全て実施できている。尚且つ勉強会の内容に準じた提案がヘルパーより50件/年ある。 ③ICTを活用した情報提供が実施出来ており課題なく運用できている。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 介護保険改正による☆専門職の役割の理解	令和3年介護保険改正（介護報酬改定含）寒川ホーム全体で取得可能な加算状況等の研修を実施。加算の理解や取得に対する意欲が深まる。	7月 認知症の理解☆ ICT活用のマニュアル作成	認知症の理解から、1ヶ月通して「暑いですが食事は摂れていますか？」の声掛けを毎訪問時に実践。基礎体力を落とす事なく+水分補給。活動内容が1件大きく変わること結びついた。
5月 看取り・ターミナルケア☆ ICT機器の検討	勉強会の内容を「脱水・熱中症」へ変更。お客様が水分摂取をしやすいように各自が対応方法を考え実践できた。	8月 IADLのアセスメント☆ ICT活用のマニュアル作成	食事摂取低下の検討・現状のサービスだけではなく、生活全般に目を向け、さらに、できなくなっている事に気づき・共有していく。 ※体重測定を行い評価する事に決定。
6月 脱水・熱中症☆ ICT機器の設置	勉強会の内容を「見守り援助と自立支援の違い」に変更（1件の活動中止を受け急遽実施）生活援助が身体介助になる為には、どんな視点が必要か共有。	9月 口腔状況のアセスメント☆ 情報提供希望者の把握	口腔内のトラブルや入れ歯の不具合などを感じている、お客様を抽出（5名）往診歯科・ブラッシングなど個々にあった対応を実践。そのうち1名は、「歯ブラシ」購入からの実施となり、計画書に口腔ケアを反映する事ができた。
上半期評価	月間計画を実行でき、ヘルパー各位がお客様を身近に捉え、理解を深める事ができ、積極的な提案に結びつきました。		
10月 服薬について☆ 情報提供開始	検討事項が長引き、時間不足となり、勉強会を実施できなかった。次年度の計画に再度、組み込んでい事とする。	1月 感染症について☆ 情報提供の継続	排泄ケアが『感染症・尿路感染・褥瘡を予防する。』第1に洗浄の大切さ！男女の洗浄方法・オムツの当て方・拭き方などの理解・毎日、行っている介助を実践する為、感染の介助技術をお教わりスピーディに実践する事が身につく。
11月 脳卒中について☆ 情報提供の継続	地域包括支援センター主催の【認知症サポーター養成講座】を受講。	2月 サービスマナーについて 情報提供の継続	訪問介護事業所に於いて、コロナウイルス感染症を発生、会議は中止となる。今月の計画は、翌月に移行。
12月 糖尿病について☆ 情報提供の継続・評価	糖尿病を踏まえ【高齢者の身体を知る。】実施。食の変化・味覚の低下・調理のコツなどを知ることで、明日からの活動に直ぐに生かせることができた。	3月 自己評価	【サービスマナー】へ変更。お客様に接遇に関するアンケートを実施する。回収率 100%、あまりできていないが3か所、評価の結果を受け改善に向けた動機づけとなる。
下半期評価	・【ターミナルケア】の勉強会は、実施できなかったが、経験豊かな強みを生かして、ターミナルケアを実践する事ができた。【寄り添い】の静の援助や連携の必要性等、貴重な体験をする事ができた。 ・本人・家族を含む地域サポーターと多職種の職域サポーターのチームを【チームオレンジ】であることを理解。認知症になっても安心して過ごせる町づくりの一端を担っていきたくヘルパー皆が考えた。		

実績・達成度（目標との比較）	①②専門職として必要な勉強会を開催することはできたが、その時に必要な事項に計画変更して実施、基礎を学び、理解を深めることに繋がった。 【☆印10項目中8項目に留まる】実施できなかった項目は、次年度に繰り越し実施していく事とする。 ①②勉強会に準じた、サービス手順書内容の提案は、意識して取り組んだが25件/年と目標値達成に至らなかった。『留まる事なく、継続して行く』 ③ ICTを活用した独居の方の情報提供は、対象者がなく未達成となる。
-----------------------	---

令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 居宅介護支援 事業計画書・事業報告書

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築	1. 会議での検討や研修での学びを共有することができた。知識や技術の習得は、自己評価で判断するしかなく、表を作成して振り返った。今まで事業所で共通のことを振り返ることはなかったので取り組みは良かった。他者評価ができないことで、評価の曖昧さや達成度を感じる事が薄くなった。 2. 初めての取り組みで、業務を洗い出して数値化することで自己や他者を知ることができた。事業所で改めて学習して効率化を目指したが、内容を把握するだけに留まり、その後の評価に繋がらなかった。 ☆全体的に取り組みながら模索した為、ゴールが曖昧となりその場限りの取り組みとなってしまった。

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）。
『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新）
『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）

居宅介護支援事業所 事業目標	①事業所の強み(主任介護支援専門員2名配置)を地域の居宅介護支援事業所に発信すると同時に他事業所の取り組みを吸収する。（歓喜・開花） ②事業所内の情報共有を強化する。（歓喜） ③ICTを活用することにより担当件数の上限を増加する。（革新・歓喜）
具体的な達成（目標）数値	①町内の居宅介護支援事業所と共同で事例検討会等を実施する(年6回)。他事業所での取り組みを事業所会議（年6回）で振り返り業務に取り入れる。 ②職員同士で管理表チェックの実施により、『サービス計画書・支援経過・モニタリング等』の改善・提案を行う。(月1回以上) ③情報通信機器（AIを含む）を活用して、事業所の取り扱い件数を35件（令和3年2月時点）から44件に引き上げる。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①会議の日程調整 ②管理表チェック・支援経過 ③ICTの情報収集	①日程調整中で他事業所の希望により実施は6月予定。計画が間延びないように年間計画表を作成する。 ②20日に実施。他CMの書類を確認し合うことで適正化や気づきに繋がる。5月も計画継続。 ③厚労省や部会等から情報収集する。タブレット購入までパソコンで絆を疑似体験する。	7月 ①会議の日程調整・会議開催・振り返り ②管理表チェック・ケアプラン 第2表 ③ICTを活用してできることを洗い出す・操作方法の勉強会を開催	①3回目の会議日が確定（8/31）。2回目の会議を27日に開催。事例検討を振り返り自分たちにも心掛けができる。 ②他の議題を優先して実施することはできなかった。 ③6日の会議で疑似体験する。活用方法を思い描くが実際に操作や調査が進んでいない。
5月 ①会議の日程調整・年間計画表作成 ②管理表チェック・モニタリング ③ICTの準備・疑似体験で慣らす	①会議の日程日が確定（6/25）。年間計画表完成。6月に2回目の会議の日程調整を開始。 ②18日に実施。6月に他事業所とモニタリングを勉強して改善や提案を図る。6月も計画継続。 ③タブレットの購入を検討中。25日の会議で疑似体験する。操作を理解して6月も他の操作を学習する。	8月 ①会議の日程調整・会議開催・振り返り ②管理表チェック・ケアプラン点検からの見直し ③ICTを活用してできることを洗い出す・タブレットの使用を常習化する	①緊急事態宣言で日程調整は中断。3回目の会議を31日に開催。9月の事業所会議で振り返り。 ②他の議題を優先して実施することはできなかった。2か月継続して実施できていないが課題は発生していない。 ③静止画撮影・メール等限定した使用に留まる。効率化や負担軽減が可視化されない中、業務を優先して活用が後回しになっている。思い描く活用方法をまずは実行して評価する。
6月 ①会議の日程調整・会議開催・振り返り ②管理表チェック・ケアプラン 第1表 ③ICTの準備・疑似体験で慣らす	①2回目の会議日が確定（7/27）。1回目の会議を25日に開催。取り入れる業務はない。 ②15日に実施。職員同士の確認で未記入に気付く。3月に改定した箇所を勉強するが再度学習は必要。 ③タブレットの購入は7月と目途が経つ。月末に町へ加算届を提出。学習は遅れて操作が身に付いていない。	9月 ①会議の振り返り ②管理表チェック・アセスメント ③ICTを活用してできることを洗い出す・タブレットの使用を常習化する	①他事業所との取り組みを把握することで自分たちに置き換えて学習することができた。 ②28日に実施。 ③タブレットでの活用方法が洗い出しできる。業務に追われて従来の対応で済ましてしまう。
上半期評価	①会議を3回実施することができた。他事業所の取り組みを業務に反映する事案はなかったが、情報を知ることで自分たちの業務を振り返る機会にはなった。他の目標で未実施であることから事例検討会は一旦停止する。 ②管理表チェックは毎月できたが、職員同士でのチェックの場を毎回用意できず管理者一人で確認することがあった。学習も毎月実施できなかった。 ③加算届を提出したことで担当件数は増加した。ただし、使い勝手が身に付かず業務効率化や負担軽減化に身を結べていない。そのような中で件数も39件を超過して担当することは少ない。		
10月 ①法改正に関する取り組み ②管理表チェック・要点 ③タブレットを使用して自己学習する	①運営の手引きの解釈を理解して共有した。ケアマネ部会での質問事項を取りまとめた。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③進展はない。取り組みに悩み11月のケアマネ部会で行政の考えを聞く。	1月 ①法改正に関する取り組み ②※①の取り組みを優先 ③計画は保留	①ケアマネ部会より法改正に関するQ&Aを高年齢介護課へ提出、回答が出次第取り組む。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③上限件数は38件で達成できず。
11月 ①法改正に関する取り組み ②※①の取り組みを優先 ③タブレットを使用して自己学習する	①契約書・重要事項説明書の解釈を理解して共有した。ケアマネ部会での質問事項を取りまとめた。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③計画は保留。12月のケアマネ部会で他事業所の意見を伺う。	2月 ①法改正に関する取り組み ②※①の取り組みを優先 ③事業所の取り扱い件数を39件にする	①運営規定を改定して共有した。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③上限件数は36件で下降する。
12月 ①法改正に関する取り組み ②※①の取り組みを優先 ③計画は保留	①書類の取り交わし時の説明や対応を意見交換して改善を図った。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③他事業所から真新しい情報は得られず。まずは加算申請前の上限件数超過を目指す。	3月 ①法改正に関する取り組み ②管理表チェック・総括表 ③事業所の取り扱い件数を39件にする	①公正中立の同意書を見直して共有した。 ②管理者がチェック済み。①の取り組みを優先して要点を学習できていない。 ③上限件数は38件で上昇した。人事異動に伴い新規利用者の受け入れを停止した。
下半期評価	①予定とは違う計画に変更して毎月取り組み理解を深めた。 ②他の取り組みを優先して行い、計画通りには達成できず。昨年度のような記録の記入漏れを防止することはできた為管理は達成した。 ③取り組み方に悩み、自己学習に頼ることや進捗しない状況が続いた。目標が達成しないまま終わってしまった。		
実績・達成度（目標との比較）	①事例検討会は3回の実施で留めて達成できず。事業所会議での振り返りも同様に3回となってしまった。コロナ禍であることや他の取り組みや業務を優先して4回目を実施しなかった。 ②管理表チェックは毎月実施したが、書類に関する改善や提案は上半期の3か月間で留まる。会議の場を設けなくても、日頃から事業所内で相談や検討を繰り返してきた。 ③情報通信機器の活用は取り組みに悩み成果を挙げられず。事業所の取り扱い件数は38件まで引き上げることができた。		

令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 事務 事業計画書・事業報告書

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下） 2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。 3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築	1. ペーパーレス化実施により経費削減 250,000円／年間 2. 補助金・助成金取得 15,600,000円／年間 ※労働時間1時間当たりの収入 260,000円 3. 予定していた機器2件のうち、1件は納期延期のため未実施、1件（ケアコチ 情報共有システム）は主に研修受講に使用。年間平均90.2%視聴達成。 ⇒ 労働生産性の高い補助金・助成金取得は今後も継続させることで、収入につなげていく。 ⇒ 引き続き経費削減できる項目についても取り組んでいき、利益率アップに努める。

法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）。 『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新） 『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）

事務 事業所 事業目標	①事務職員8名それぞれの弱み克服のために個人目標を立て、強みに近づけるよう行動する。（歓喜） ②業務キャッシュレス化（革新・開花） ③書類や物品の整理整頓ができる環境・ルール作り。保管ルールを決めることで発注・スペースの無駄をなくす。（革新・開花）
具体的な達成（目標）数値	①目標達成できているか事務職員同士で評価しあう。⇒ 8名全員達成を目標値とする。 ②支払業務80%減（原則、現金精算ゼロ） ③1F霊安室改修及び緊急時用物品の整備 ⇒ 管理にかかる時間を年間50%減（年120時間 ⇒ 60時間）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①個人目標を立てる ②対象業務の選別	①所属職員へ説明後、個人目標立案。5月中旬からスタートできるように内容を見直し中。 ②対象業務選別済み。 順次キャッシュレス対応ができるか確認。今月は5件の業務について対応済み。	7月 ②カード会社選定 ③改修見積等事前準備	見積請求・確認。
5月 ①行動計画を立て実施 ②クレジットカード規程作成	①個別目標立案済み。他職員の目標と取り組みが把握できるように一覧作成・配布・説明済み。 ②クレジットカード規程作成済み。理事会・評議員会承認済み。	8月 ②キャッシュレスルール作り ②クレジットカード申込 ①ルール周知	②キャッシュレスルールをまとめ、全事業所に周知。 ②クレジットカード申込済み ③工事完了
6月 ②その他業務改善	②当初予定していたキャッシュレス化について、一部先方の事情により移行できない業務があるため、その他業務改善を進める。具体的には、社会保険手続きの電子申請の範囲拡大（賞与支払届・算定届）を実施。	9月 ①上半期評価 ②キャッシュレス開始 ③ルール案作成	②クレジットカード追加書類作成等 ③物品ごとに区分け ※他 明細配信準備 職員個々のスマホ設定
上半期評価	②について、協力病院の決済方法が変更できなかったことが誤算であったが、代替として電子申請（社会保険手続き・勤怠システム・給与明細配信）ができるように環境を整えることにした。事務職員の他、全職員の協力のもと、順調に進んでいる。		
10月 ①目標見直し・実施 ③物品整備	①個別面談にて各自目標評価の実施 ②クレジットカード手続き完了 管理簿作成 ③随時整備中 ※他 明細配信スタート・勤怠システム変更準備	1月 ①目標達成状況確認 ③整理	目標達成に向けて進捗確認を行い、年度を通じた行動計画であることを再確認。
11月 ②3か月後評価 ③ルール確定・物品整備	②初回（10月分）実施 ※他 勤怠システム変更開始・管理者設定・作業用資料作成	2月 ①下半期評価	他業務により、下半期評価ができなかった。 ※LINEWorks準備・練習
12月 ③整理	③室内の整理 ※他 勤怠システム変更開始・管理者設定・作業用資料作成	3月 ①～③ 年間振り返り 次年度課題抽出	下半期評価（各自・他職員）
下半期評価	②クレジットカード使用開始に伴い業務キャッシュレス化をさらに進めることができた。 ③保管庫の整理整頓が継続できたことにより物品もスムーズに管理することができた。		
実績・達成度（目標との比較）	①未達成 達成状況⇒7名／7名中（1名退職）それぞれが目標に向けて取り組むことができた。評価し合うという点が実施できなかったが、他職員の実施項目を確認できる機会を設けることはできた。 ②未達成（目標80%減⇒実績47%減。受診費用について、先方の都合で達成ならず。代替として労務・税務事務に関するICT活用を進めた。支払業務にかかる時間は年間で300時間以上減） ③達成 週1回ペースで管理 ⇒ 月1～2回程度に減 50%減 削減が達成できた時間を、事務業務の電子化の準備や新人教育に充当することができた。引き続き、効率できる業務を見つけて対応していく。		